



昼と夜で表情を変える内部空間。



二人並んで珈琲を淹れるご夫妻。

テーブルを囲んで会話も弾む。

カウンター越しに客人をもてなすご夫妻。



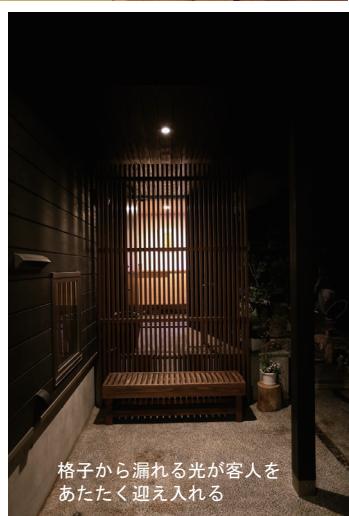
隣地より全景を望む。借景をうまく採り入れられていることが判る。

## 文藝酒場ちろり 一里山循環型住居『しそう杉の家』一

美しい山景の残る播磨地域では、人と自然が関わりあうことで、地域の豊かな環境をつくりあげてきた。里山環境の循環に合わせて木々を伐採し、生活のための薪炭だけでなく、住宅の建材として利用してきた。しかし、林業の衰退によって、製材所が激減している。

そこで、これらの地域循環型の生活の知恵を活かし、自社の山上から山下の木材生産工程の管理や木材の90%以上を地域材を活用、大鋸屑の再利用、里山から山採りされた樹木を庭に植えたり、既存の雑木を活かすといった地域の環境を活かしたサスティナブルな現代版民家『しそう杉の家』を提案することにより、林業ならびに地域が活性化する取り組みを行っている。

本提案では、この里山循環型住居『しそう杉の家』の1例を紹介。



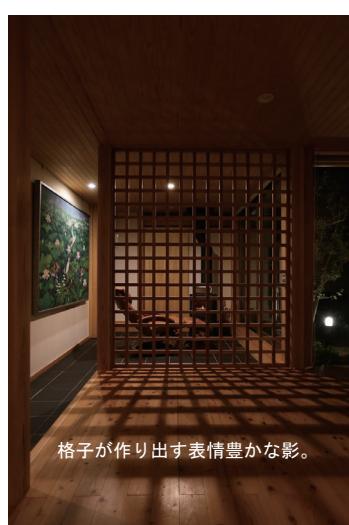
格子から漏れる光が客人をあたたくを迎える。



夜間に執り行われた茶事の様子。小さな地窓をじり口に見立てている。石壺の敷かれた中庭にある手水鉢で手と口を清めてから始まります。



ライトアップされた庭を眺めながら、薪ストーブの火を楽しむご夫妻。



格子が作り出す表情豊かな影。



# 播磨地域における里山の循環型住居システム

計画の対象地は周囲を山に囲まれ農地の広がる兵庫県播磨地域に位置し、旧街道沿いに多くの農村民家が立ち並び、美しい家並みが残る地域です。

この地域では、若者の流出・林業の後継者不足といった社会的背景から里山と人の関わりが減り、山林と竹林の荒廃によって里山の環境が変わりつつあります。また、播磨地域の山間部においては林業が衰退し、魅力的な里山の風景が消失しつつあります。

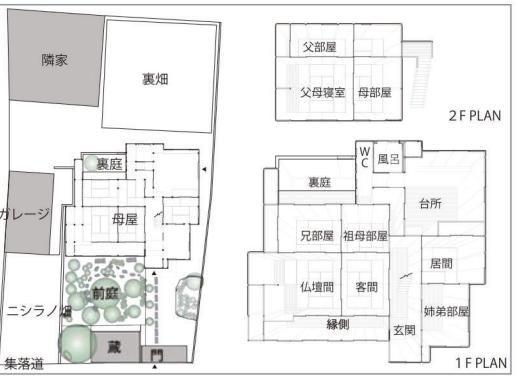
美しい山景の広がる播磨地域では、里山の風景や自然とともに生きた知恵がありました。播磨地域は人と自然が関わりあうことで地域の環境を作りあげてきました。里山環境の循環にあわせて木々を伐採し、生活のための薪炭だけでなく、住宅の建材として利用していました。

このような地域循環型の生活の知恵をもとに、自社で山上から山下の木材の生産工程を管理し、建材に地場材である90%以上の宍粟の杉材を活用し、里山から山採りされた樹木を植えることで庭とするといった、地域の環境を活かしたサステナブルなデザインとして「しそう杉の家」を提案します。「しそう杉の家」は、手の入らなくなった里山の杉と山木を用いることで、里山の環境を再評価し、基幹産業の林業を再興させるための里山循環型の住居システムです。



## ■ 播磨型民家の空間構成

実測調査によって明らかになった、播磨型農村民家の空間構成を図に示す。集落道より南から北へ、門、蔵、前庭、母屋、裏庭、母屋の近くに煙を設けている。母屋の開口は全て建具によって仕切られており、南北の縁側の建具を通して、前庭から注ぐ風、日光、水気といったパッシブエネルギーを取り入れている。このようなエネルギーの調整は建具によって行われ、空間相互の居住環境の調整を行う仕組みとなっている。

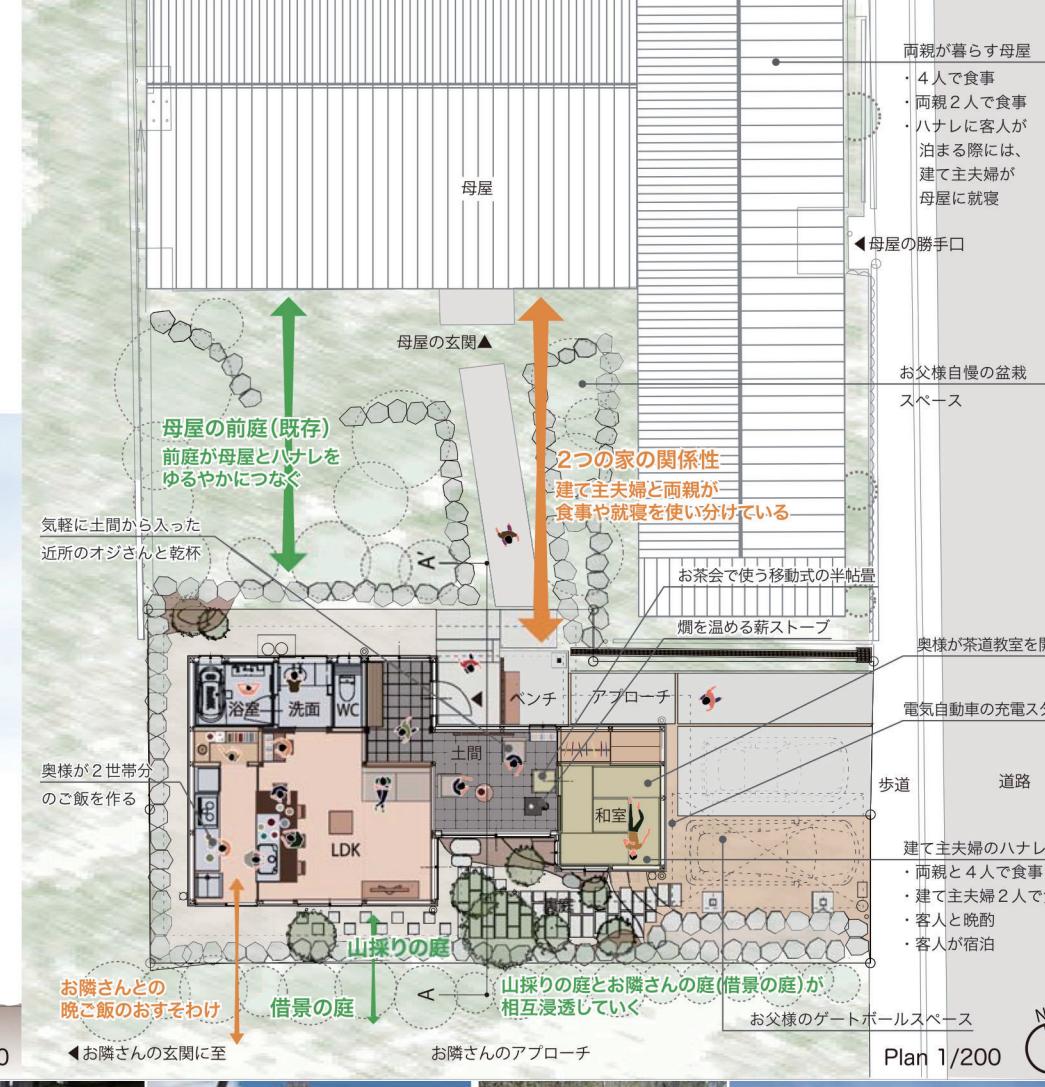


■ 現代の播磨型民家をめざして  
農の風景が変わりゆく中で、この地域のアイデンティティとなる建築を調査していった。現地調査によって、この地域の風景は、淡路瓦によって葺かれた入母屋の屋根、焼杉板の壁が街道沿いに連なり、美しい街並みをかたちづくっていることが明らかになった。これらの調査をもとに明らかになった播磨地域の空間構成、自然のパッシブエネルギーを利用するための仕組みを再認識・再評価し、現代の播磨型民家を提案する。



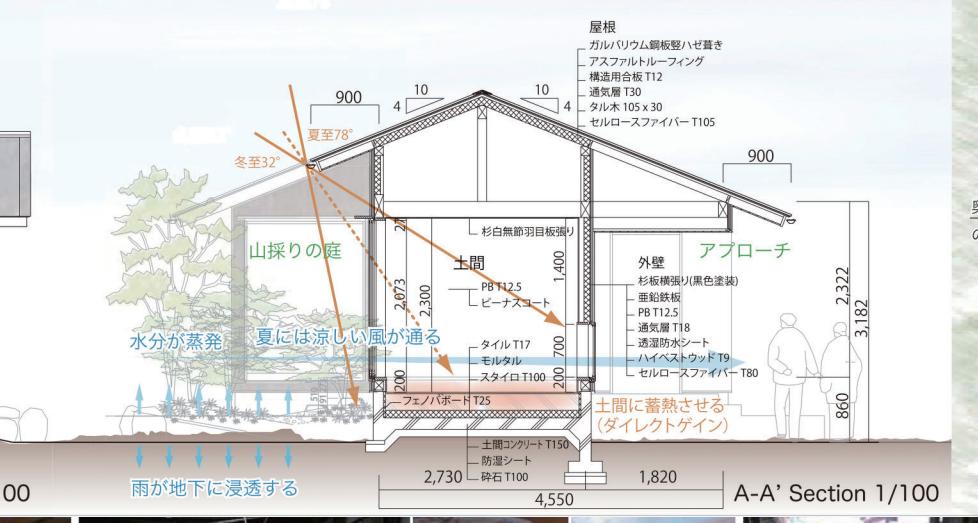
## ■ 地元の自然素材と山採りの庭（里山の循環型住居システム）

計画地である播磨地域は、美しい山景の広がる地域である。地域の文脈性を読み取りながら、地元の里山から採られた樹木によって庭を造り、地域産出のしそう杉を活用することで、周辺環境に調和するような計画とした。



## ■ 可変性と程よい距離感

既存の母屋とハナレの関係は、母屋とハナレに行ったり来たりといった建て主の生活に順応している。晩ご飯を食べる場所、就寝する場所、住まい方は、ちろりで開かれる晩酌や茶道教室によって絶えず変化しているのだ。



SYSTEM001 - 里山から生まれた地域環境循環型の生産システム



SYSTEM002 - 杉の命を残した木の生産デザイン

私たちの会社は材質所を有する工務店である。そのため、材料からのデザインを考えたい。杉材は自社で伐採しており、林業が栄えた町であったが、林業の衰退によって、120の材質所が15まで減少した。そこで、社の乾燥工場で低温乾燥によって、精油成分を保ったまま材質される。この精油成分(フィトンチッド)

を残すこと、木の細胞は生き続け強度を保ち、杉材は加湿・除湿の調湿材として機能する。

SYSTEM003 - 大工と機械が協働する長期寿命の木造住宅

乾燥が完了した木材は再び製材所に搬入した自社のプレカット工場に運ばれる。ここでは、全自動でプレカットを行う

ではなく、墨入れを大工が行い、継ぎ手の加工を機械が行っている。そうすることで、狂いの少ない継ぎ手を作りだし、

長期寿命の木造住宅のために優良な材質を提供している。また、この工程で生じる材質をペレットとして再利用している。

SYSTEM004 - 木と調和した人にやさしい自然材料による屋根パネル

断熱性能を上げるために、自社で屋根パネルを作っている。これは、杉材の板に板材を貼付け、中にセルロースファ

イバーを充填した継ぎ込み式の断熱屋根である。水平な状態から断熱材を吹き込むことによって、断熱材の性能を

均質に仕上げることができる。また、屋根パネルを先に作ることで、現場での施工性を向上させている。

SYSTEM005 - しそう杉の家と山採りの庭による環境デザイン -

しそう杉の家には、はりまのというコセツのものと、宍粟の里山で採られた山採りの樹を庭木として植栽している。このように里山の風景を創出するような地域環境を活かした新しい取り組みによ

って、播磨地域において穴材を活用した150枚以上のしそう杉の家と里山の庭が施工されています。

私たちには木を使うことによって、地域産業の林業を復興し、播磨らしい里山循環型システムを提案したいと考えています。